

# Deja vu

タカスケイチ 個展

2016年5月28日[土] - 6月12日[日] 午前11時 - 午後7時

\*月曜休廊・金曜日は午後8時まで・最終日は午後6時まで

Gallery P A R C

GRAND MARBLE

2004年に名古屋造形芸術大学を卒業、2016年に京都市立芸術大学 大学院美術研究科 絵画専攻を卒業したタカスケイチ(たかす・けんいち/1980年・静岡県生まれ)は、これまでにアーティストとしての多様な活動とともに、自らアートをスペースを運営するなどの活動を続けています。

タイトルを「Deja vu」(デジャヴ:既視感。実際には経験したことがないのに、すでにどこかで体験したことのように感じる体験)とする本展では、タカスの新作・近作を中心に構成いたします。

こちらは同時期・同会場で行われている過去作を中心とした「Jamais vu」展と合わせてお楽しみください。

また会期中、高須健市が運営するART SPACE ZERO-ONEでは、オープンアトリエ「vu」を開催し、今回の個展のための制作現場を維持したまま、試作品やアイデアなどのラフなどを公開します。

開廊時間は平日の19時以降で完全予約制とさせていただきます。個展会場で気になることがございましたら、こちらもご覧いただければ幸いです。

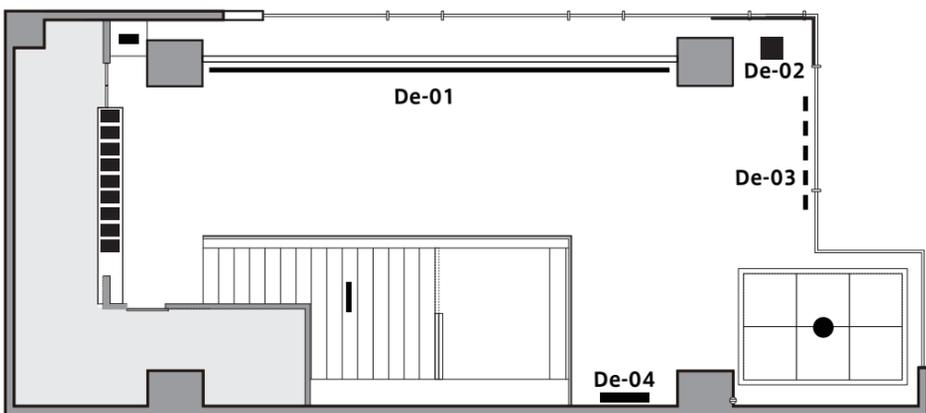
オープンアトリエ「vu」

開廊期間:2016年5月30日[月]~6月10日[金]

開廊時間:月~金 午後7時~午後9時

会場:ART SPACE ZERO-ONE(〒531-0072 大阪市北区豊崎4丁目9-16白苑ビル31)

完全予約制(HP:<http://kenichi-takasu.com/zero-one/> より事前申し込み)



De-01

## EUREKA

発光ダイオード、リチウム電池、シャーレ、シンクロナスモーター

2016

シャーレの中にLED発光ダイオードとリチウム電池のみを入れて低速回転させることで、LED発光ダイオードがリチウム電池と接触した場合にのみ発光する。当初、この作品は光をランダムで光らせるという趣旨のもと、プログラミングによる別作品として制作してきたが、ある日、大量のLED発光ダイオードの中にリチウム電池を数個入れて運んでいた時、たまたまそれらが通電してLEDが発光したのを見て、真のランダムとはこういうことだと気づいた。

ちなみにタイトルのEUREKAとは数学者・発明者であるアルキメデスが叫んだ「EUREKA(私は見つけた)」に由来する。

De-02

## Handloading

戦地で使用された薬莢、弾頭の代わりに羊毛フェルト、雷管の代わりに紙粘土、火薬の代わりに花粉

2016

使用済みの薬莢というものは弾頭と雷管を変え、火薬を入れれば再び使用できる。これをハンドロードと言うらしい。この薬莢も何度もハンドロードで負のサイクルを生み出してきただろう。そのサイクルを断ち切るために私は、争いは程遠い素材で一つの薬莢のハンドロードを試みた。

De-03

## Melody

インクジェットプリント

2004

とある楽曲の最初の一小節。楽譜は読めなくていい。あなたがこの音符から導いた鼻歌こそが私が聴かせたい曲。

De-04

## ALICE

ミクストメディア

2016

ルイス・キャロルの児童小説「鏡の国のアリス」の中で、鏡の世界に迷い込んだアリスは現実世界に向かってこうつぶやいた。「Oh, what fun it'll be, when they see me through the glass in here, and can't get at me!(みんなが鏡越しにこっちにいるあたしを見て、でもだれも捕まえないの。ああ、なんて楽しいかしら。)」この作品は上記の文字を反転させて鏡部分に書かれている。また、その文字の一字一字の背面には原書で挿絵を担当したジョン・テニエルが描いたアリスが隠れており、鏡に反射されて、まさに本当の鏡の国の中のアリスを観ることができる。世界と異世界の境目とはどこにあるのだろうか?

De-05(ギャラリー入り口ライトボックス部分)

## untitled

清涼飲料水

2016

この作品はジュース等の外のラベルを剥がしてロゴは製造年月日を削って並べただけである。中身は入れ替えていないどころか封さず開けていない。私たちはこれらの「もの」を受け入れられるであろうか?

## 高須健市takasu kenichi

ステートメント

物事の見方や考え方をほんの少し変えるだけ。

# Jamais vu

高須健市 個展

2016年5月28日[土] - 6月12日[日] 午前11時 - 午後7時

\*月曜休廊・金曜日は午後8時まで・最終日は午後6時まで

Gallery P A R C

GRAND MARBLE

2004年に名古屋造形芸術大学を卒業、2016年に京都市立芸術大学 大学院美術研究科 絵画専攻を卒業した高須健市(たかす・けんいち/1980年・静岡県生まれ)は、これまでにアーティストとしての多様な活動とともに、自らアートをスペースを運営するなどの活動を続けています。

タイトルを「Jamais vu」(ジャメビュ:未視感。実際にはよく知っていることを初めて経験したように感じる体験)とする本展では、高須の過去作を中心に構成いたします。

こちらは同時期・同会場で行われている過去作を中心とした「Deja vu」展と合わせてお楽しみください。

また会期中、高須健市が運営するART SPACE ZERO-ONEでは、オープンアトリエ「vu」を開催し、今回の個展のための制作現場を維持したまま、試作品やアイデアなどのラフなどを公開します。

開廊時間は平日の19時以降で完全予約制とさせていただきます。個展会場で気になることがございましたら、こちらもご覧いただければ幸いです。

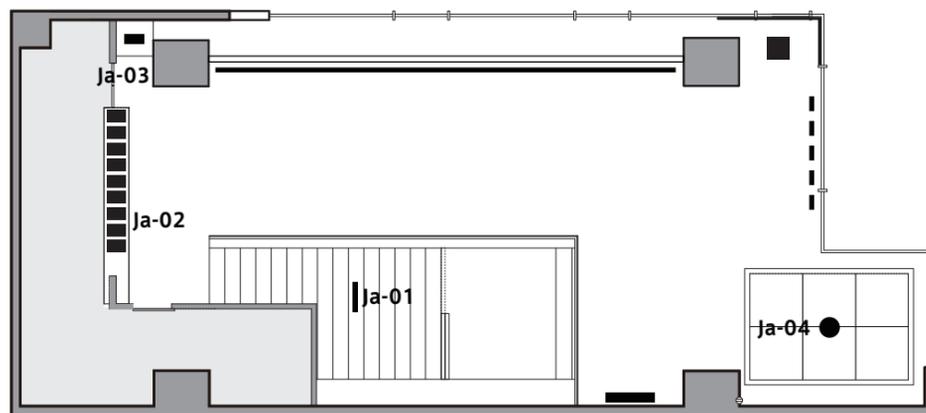
オープンアトリエ「vu」

開廊期間:2016年5月30日[月]~6月10日[金]

開廊時間:月~金 午後7時~午後9時

会場:ART SPACE ZERO-ONE(〒531-0072 大阪市北区豊崎4丁目9-16白苑ビル31)

完全予約制(HP:<http://kenichi-takasu.com/zero-one/> より事前申し込み)



Ja-01

## Lost and Found (Panel)

販促用パネル、マーカー

2008~

商品の販促用パネルをマーカーで黒塗りにする。現在の商品の販促活動に置いて、商品に対してのイメージキャラクターやタレント等を付ける事はもっとも効果的とされている商法のひとつである。

私はそれらによって生み出される効果は非常に懸念しているのだが、実際にその商品がキャラクター効果によって売れてしまうのも事実なのだ。

イメージキャラクターやキャンペーンガール等から解放された「商品」。そこからは何が消え去り、何が浮かび上がるのか。

Ja-02

## Lost and Found (Book)

本、マーカー

2004~

この作品では、市販されている本の「私が定めた情報のみ」を黒いマーカーで塗りつぶしてある。そして、その情報が塗りつぶされている本を元と同じ定価で販売した。

この作品は本によって、初めに「何を見せたくて、何を見せないのか」を決めてから塗りつぶす。

人によって価値というものとは人それぞれなので、塗りつぶす人が変われば塗りつぶすモノも変わってくるだろう。

Ja-03

## SURFACE(Ashiya)

兵庫県芦屋市で収集したゴミ、紙袋

2013

芦屋の街に捨てられていたゴミを拾い集め、ルイ・ヴィトンのモノグラム柄に切り抜き、それを紙袋に貼り付ける。

タイトルの「SURFACE」とは「上っ面」の意味である。

この作品は、ハイブランドに向けてのアンチテーゼではない。それらを表層の価値のみを求めて消費している側への批判である。

Ja-04

## Win-Win

性具

2016

女性用性具と男子用性具を結合させて電源を入れる。

行為のみは行われるが、そこに全く生産性は無く、虚しい音だけが響き渡る。

「Win-Win」とはビジネス用語の「Win-Winな関係(交渉者がともに利得を享受できること)」と、この作品のモーターのウィンウィンという作動音をかけたものである。

## 高須健市takasu kenichi

ステートメント

物事の見方や考え方をほんの少し変えるだけ。